

2019.12.29 第5主日年末感謝礼拝

哀歌 3:19-33 「主の恵みに感謝」

## 聖書

19 私の苦しみとさすらいの思い出は、苦よもぎと苦味だけ。

20 私のたましいは、ただこれを思い出しては沈む。

21 私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。

22 主の恵みを。」実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。

23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は偉大です。

24 主こそ、私への割り当てです」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。

25 主はいつくしみ深い。主に望みを置く者、主を求めるたましいに。

26 主の救いを静まって待ち望むのは良い。

27 人が、若いときに、くびきを負うのは良い。

28 それを負わされたなら、ひとり静まって座っていよ。

29 口を土のちりにつけよ。もしかすると希望があるかもしれない。

30 自分を打つ者には頬を向け、十分に恥辱を受けよ。

31 主は、いつまでも見放してはおられない。

32 主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。

33 主が人の子らを、意味もなく、苦しめ悩ませることはない。

## はじめに

今日は2019年最後の礼拝です。一年間の歩みをここまで守られ、皆さんとご一緒に礼拝をささげることができましたことを心から嬉しく思います。一年を振り返り、皆さんそれぞれ感謝なことがたくさんあったと思いますが、私にとって一番の感謝は、こうして毎週皆さんと礼拝をささげることができたことです。今年、個人的にまた教会として抱えた課題があったことを思う

とき、毎週の礼拝を変わりなくささげることができましたことは、何よりの感謝であり、ただ主のあわれみと恵みに他なりません。このような牧者を背後で祈り支えてくださいました愛する兄弟姉妹の愛と忍耐と寛容のゆえに御名を崇め感謝いたします。一年を締め括るにあたり、私の心にあることは、主のいつくしみは何と深く、そのあわれみは尽きないということです。

### 1. 主を賛美する理由はどこに？

「主は良いお方」という賛美がありますので、お聞きください。歌詞は次のようです。「わが魂(たましい) 主をたたえよ／聖なる御名を ほめたたえよ／主の良くしてくださったことを／何一つ忘れるな／主は良いお方 主は良いお方／恵みと憐れみの冠(かんむり)をもって／私の一生 良いもので満たす／主は良いお方 賛美をささげます」。これは詩篇 103:2-5 を元に作られている賛美です。

信仰者にとって「主は良いお方」と賛美できる出発点はどこにあるのでしょうか。詩篇 103:2 のことばを借りるなら「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」と言われている「良くしてくださったこと」の理由は何かということです。「主は良いお方」「主が良くしてくださった」と告白できる理由は、主が私たちを楽しませ喜ばせてくださったからなのでしょう。確かにそのような良き出来事は人に喜びを与えるものですが、それが感謝のすべてなのでしょう。もしそうだとすれば、辛いこと、苦しいこと、悲しいこと、痛いことは感謝の理由にはなり得ませんから、病の床にいる方々や試練や災いの中で苦しみを抱える方々にとっては、賛美は無縁の世界となってしまう。しかし、そうした戦いを抱えながら主を賛美する人たちがいることを私は知っています。

今日は哀歌 3 章 19 節からをテキストとしていますが、1~18 節には何が書いてあるのかと言えば、絶望です。「主は、私を連れ去り、光のない闇を歩ませ、御手をもって一日中、繰り返し私を攻められた。」(2, 3 節)、「主は私を道から外れさせ、私を引き裂き、無残な姿にされた。」(11 節)、「主は私を苦菜で満腹にし、苦よもぎで酔わせ、私の歯を砂利で碎き、灰の中で私を踏み

つけられた。」(15, 16 節)。その結果「私のたましいは平安から見放され、私は幸せを忘れてしまった。私は言った、『私の誉れと、主から受けた望みは消え失せた』と。」(17, 18 節)。絶望の原因は「主の激しい怒りのむちを受けた」(1 節) ことにありましたから、自らの罪や愚かさによります。それによって、「もう私は神さまから見捨てられてしまったのだ。もう終わりだ」と深く絶望するしかありませんでした。しかし、そのどん底の状態こそが「主は良いお方」と告白できる理由となっているのです。病であれ、試練であれ、災いであれ、様々な困難を抱えるとき、実はそれこそが主を賛美する理由となり得るのであり、そこが出発点なのです。

ではなぜ、そんな辛いことが主を賛美する理由となり得るのでしょうか。

## 2. 苦難の中で見出す主の恵み

過去を振り返る時、「私の苦しみとさすらいの思い出は、苦よもぎと苦味だけ。私のたましいは、ただこれを思い出しては沈む。」(19, 20 節) と、ここには失望と落胆の淵に落とされた人間の姿があります。しかし、落ちるところまで落ちて初めて見える世界があることも事実です。落ちることは恐ろしいです。惨めな自分の姿に耐えられなくなるかもしれません。でも底なしの暗やみに落ちるような不安と恐れの前にあるものは滅びではありません。そこにあるものは「下には永遠の腕がある」(申命記 33:27) という主の支えの御手であり、主のあわれみなのです。「実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。」(22 節) と言われているように、人はどんなに落ちても決して打ち砕かれることはありません。必ず主のあわれみの御手によって支えられ、立ち上がることができるのです。

信仰者が試練や災い、自らの罪深さから来る過ちや失敗から立ち直っていく理由は、どんなに苦しく辛い状況にあっても、下には主のあわれみの御手があり、主の恵みは尽きないからだということを知っているからです。主は良いお方であり、必ず最善を成してくださると信じているので、「それゆえ、私は主を待ち望む。」(21, 24 節) という信仰に立てるのです。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべ

てのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」(ローマ 8:28) とあるように、主の最善の御手を信じることができる人は幸いです。その人は立ち上がって行くことができるからです。

とは言いましても、主の最善を受け止めるために、もしかしたら今しばらくは苦難の中に身を置くことが求められるかもしれません。すぐに問題の解決を願う私たちの思いと主のご計画とが一致しないことがあるからです。いやほとんどの場合、一致しないかもしれません。そんな時に、じたばたとせず、静かに事の展開を待つことも大切です。「主の救いを静まって待ち望むのは良い。人が若いときに、くびきを負うのは良い。それを負わされたなら、ひとり静まって座っていよ。口を土のちりにつけよ。もしかすると希望があるかもしれない。自分を打つ者には頬を向け、十分に恥辱を受けよ。」(26-30 節)。主の救いを待ち望む期間は時に苦しいものです。悪い方向に行くのではないかと恐れ、今の状況は自分のせいだと自分で自分を責め、周りの人の目や評価が気になり、その状況に留まり続けることが苦しくなります。その苦しさを認めつつ、そこに留まることで神さまの深い御旨に触れることができることを忘れないでいただきたいのです。それは病気や試練などの問題を抱えたまま前を向いて歩くことを意味しているかもしれません。ある人は、問題を抱えたままの状態をよしとせず、それだったら神さまを信じる意味がないというかもしれません。問題が解決されることも主の恵みですが、問題を抱えたまま生きることも主の恵みなのであり、前者であっても後者であっても、主は共におられることに変わりはありません。

### 3. 主が共におられる

問題を抱えたまま生きることになっても、その中で主を賛美し、主に感謝して前を向いて生きることができるなら、それこそ真の強さと言えるのではないのでしょうか。そのような真の強さは、人間の努力や頑張りで得られるものではありません。人に真の強さを与えてくださるのは主ご自身です。私たちにその強さを与えるために、主は一人一人に目を向け、問題の只中を共に歩んでくださいます。

「主は、いつまでも見放してはおられない。主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。主が人の子らを、意味もなく、苦しめ悩ませることはない。」(31-33 節)。ここには、苦難の中に立つ主の姿が描かれています。主は人が背負う苦難をいつまでも放っておかれることはない。主の豊かな恵みによってあわれみを受ける時が必ず来る。主が人に与える苦難には意味がある。悩ませることが目的ではなく、悩みから学び立ち上がらせることが目的である。苦難の中に「わたしも共にいる」という神さまの声が満ちています。それを聞くことができるように祈ります。主が共におられるということを表したことが、キリストの誕生の時に与えられた「インマヌエル」(マタイ 1:23) という名です。インマヌエルと呼ばれるイエスさまは、たとえ私たち自身が招いた悲しみや痛みであったとしても、その中に共にいてくださり、いつの日か苦難の意味を教えてくださいます。私たちににとって大切なことは、苦難の意味を教えてくださいまで、主と共に苦難の中に留まり続けることです。そうするなら、必ず「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきてを学びました。」(詩篇 119:71) という恵みの世界を見せていただけるでしょう。

## 結び

主は良いお方です。主の恵みとあわれみは尽きません。私たちの望みは、最善を成したもう主イエスさまにのみあります。説教の後にささげる賛美歌の歌詞を紹介して、一人一人の上に主の祝福が豊かに注がれますようにお祈りします。

教会福音讃美歌 359 番「私の望みは主イエスだけにある」

1. 私の望みは 主イエスだけにある

ゆるがぬ礎 まことの光よ

その高き愛と とこしえの平和

まことの慰め すべてのすべてよ

2. この世に来られた 神のひとり子は

恵みとまことに 満ちておられる主  
十字架の苦しみ 御神の怒りを  
その身に負われて 人を救われた

3. 闇夜にさまよう 世界を照らして  
輝く栄光 イエスのよみがえり  
主イエスの勝利に 死のとげ折られて  
とうとい血潮は 私をあがなう

4. 恐れは消えさり 罪は赦された  
私の歩みは 御手の中にある  
この身をイエスより はなすものはない  
終わりのときまで イエスにより頼む